巻頭特集　食料・観光・減災・国土保持まで担う、海のゆりかご

「サンゴの恵み」

さまざまな命の息づく青い海と、白い砂浜。
宮古諸島に暮らす人々にとって当たり前の風景は、実は小さな動物「サンゴ」によってつくられていると知っていましたか？
今月は、文字通り私たちの生活の〝土台〟となっているサンゴのご紹介です。

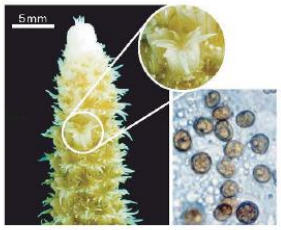
専門家に聞く！宮古のサンゴ

宮古島サンゴ礁ガイドのなかまたち　会長
友利 博一さん

宮古島市城辺出身。内地から20年ぶりに帰島した際、砂浜やサンゴ礁が少年時代の光景とすっかり変わっていることに驚き、サンゴの啓発活動を始める。

■友利会長、まずはサンゴがどんないきものなのか教えてください。

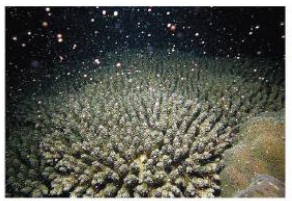
友利さん：サンゴはイソギンチャクやクラゲに近い小さな動物です。口があって"胃"があって、触手で動物プランクトンをつかまえて食べています。皆さんが想像するテーブル状や枝状のサンゴは、小さなサンゴが無数に集まった〝群体〟という状態ですね。



触手をのばしたサンゴ

■動物なんですか!?光が必要と聞いていたので、てっきり植物だと。

友利さん：そう、動物なんです。だから産卵もしますよ。ちょうど今は産卵シーズンで、満月の夜前後に一斉に産卵するサンゴもいます。ただ、サンゴが光を必要とするのも本当で、その理由は、サンゴの体内に褐虫藻（かっちゅうそう）という単細胞植物が住んでいることにあります。サンゴと褐虫藻は共生関係にあって、褐虫藻はサンゴの老廃物を利用して光合成をし、サンゴはその光合成でできた栄養をもらって成長します。だから、サンゴは光の届く澄んだ海でないと成長できないんです。


宮古島周辺でもごく普通にみられるウスエダミドリイシの産卵。いわゆる「サンゴの一斉産卵」に参加する種

■成長すると、あの固いサンゴになるんですか？

友利さん：固くなるのではなく、あれはサンゴの骨格です。サンゴは成長の過程で石灰質の骨をつくり、その骨格を支えとして大きくなっていくんです。そして、その石灰質の骨格が長い年月を掛けて積み重なって、大きな石灰岩の海底地形となったものをサンゴ礁と呼びます。サンゴは動物、サンゴ礁は地形（またはその地形にある生態系）のことなんですね。

■宮古はサンゴ礁の島と聞きます。ということは…？

友利さん：はい、島の土台である石灰岩は数えきれないほどのサンゴの骨格が堆積してできたものなんです。宮古の白い砂浜も、細かく砕けたサンゴの骨格や貝殻が海岸に打ち寄せたものなんですよ。宮古の人は白い砂浜を当然のものと受け止めていますが、サンゴ礁ではない場所、たとえば東京や大阪の砂浜の色はもっと黒い。川を流れてきた山の土砂が原料である内地の砂浜と違って、宮古の砂浜は海からやってきた、サンゴの恵みでつくられた特別な砂浜なんです。

（写真上）川から流されてきた黒い砂浜（静岡県三保海岸）横地洋之さん撮影
（写真下）いろいろな生物が砕けて白い砂浜になる（宮古島）

■では、サンゴがなくなると白い砂浜もなくなる？

友利さん：影響はそれだけにとどまらないでしょうね。まず、サンゴ礁は豊かな漁場です。サンゴが壊滅すれば、今のような豊富な水産資源を得ることはできなくなるでしょう。また、サンゴは天然の防波堤です。サンゴが生きていれば、波で削られても絶えず再生するサンゴによってサンゴ礁が維持されますが、サンゴが死んでしまえばサンゴ礁は波に壊され減るばかり、やがては島の地形も波で削られていきます。大きな視点に立てば、サンゴは国土の保持にも役立っているわけです。

■サンゴを守ることが、島や国土を守ることにつながるんですか！

友利さん：実際、日本政府も沖ノ鳥島という小さな島を守ろうと、大真面目にサンゴの養殖・移植に取り組んでいたりするんですよ！ただ…、国土のためにサンゴを守ろうなんて、私たちも言うつもりはありません。サンゴを守ることに反対する人はいないでしょうけれど、なぜサンゴを守らなければならないのかという理由については、人それぞれだからです。たとえば、観光産業に関わる方々は観光資源として保全をするし、漁業に関わる方々は漁場としての保全を行なうでしょう。宮古の豊かな自然を守ろうというスタンスも、サンゴ保全の一つの姿でしょう。「サンゴを守る」というゴールは共通でも、守ろうとする人の立場によって、保全の目的や方法が変わってくるのは当然のことです。

■サンゴとの関わり方も多様化しているのですね。

友利さん：昔は、多くの人が食料を得るためや暮らしの一部として海やサンゴ礁と関わっていました。豊漁を願うハーリーや、航海の安全を祈る竜宮ニガイ・浜神ニガイ、海の神様の力を借りて豊作と虫害除けを願うムスソーズ（虫掃除）など、宮古島の人々は「食べる」ために海で神事を行ない、海を美しく保ってきたわけです。干上がった海で潮干狩りを楽しむサニツも、もともとは海に感謝する神事ですね。

狩俣の竜宮ニガイ。米や塩、モチなどを供え、海の神に祈りをささげる

ですが、食べることに困らなくなり、海との関わり方が多様化し、あるいは、人々があまり海に関心を抱かなくなったことで、昔にはなかった海の汚染や問題が生まれています。

たとえば、温暖化が原因と言われるサンゴの白化現象や、生活排水や農業で使われる化学肥料が遠因とされるオニヒトデの大発生などもそのひとつです。こうした多様な問題には、多様な方法でサンゴの保全に取り組む必要があります。「この方法がいちばん正しい」ということはありません。正解はひとつではないのです。

しかし、今のサンゴは減りすぎて危機的な状況であることは間違いありません。昔のようにたくさんいれば、多少壊れても再生できていたのですが、今のサンゴの再生力は非常に弱まっています。

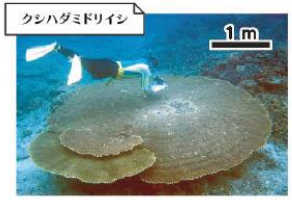
サンゴを食い荒らすオニヒトデ。大発生は化学肥料や動物のし尿に含まれる窒素やリンが遠因とも

■では、私たちはどうサンゴと向き合えばいいでしょう？

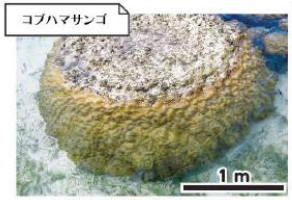
友利さん：まずは、海とサンゴのことを知ってほしいですね。今はインターネットですぐに情報が得られますが、それよりも実物を見て、サンゴや海の恵みを、サンゴ礁の生態系を体感してみましょう。いくら「サンゴが大事」と言われても、本物に接してみないことにはピンとこないでしょう。

でも、少しでもサンゴの実態を知れば、そこからは自分で「サンゴとどう関わるのがいいのか」を考えられるようになります。サンゴを踏まないように歩くことや、貝や魚を獲り過ぎないこと、ゴミをポイ捨てしないこと、日焼け止めや洗剤を環境にいいものに変えること。どれも正しい保全ですが、興味や関心がなければ難しい行動です。皆さんが無理のない範囲で海やサンゴのことを学び、無理せず気長に続けてくれたなら、サンゴ保全の啓発団体である私たちとしては嬉しい限りですね。

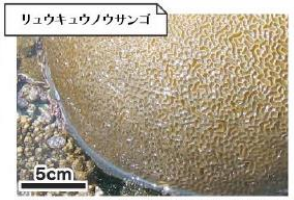
宮古島でよくみられるサンゴ



テーブル状に成長するサンゴ。
2mまで成長するには15年かかるのだそう。



浅瀬では切株状に成長するサンゴ。
新城海岸でよく見られる。



塊状に成長するサンゴ。表面に脳みそのしわのような細いみぞがたくさんある。

池間・八重干瀬会

悪循環を断ち切る！

国内最大級の規模を誇る広大なサンゴ礁「八重干瀬（やびじ）」。その八重干瀬に近い池間島では昨年から沖縄県のプロジェクトとして、サンゴ礁再生のためのサンゴの増殖・移植の取り組みが進められています。主体となっているのは、池間島のダイビングショップを中心に構成される「池間・八重干瀬会」と、「国立研究開発法人水産研究・教育機構」の皆さん。池間島周辺で採捕（※）した卵つきのサンゴを、狩俣の宮古島市海業センターに移して採卵・着床させ、生まれた稚サンゴを再び池間島の海で見守り育てるという、手間も時間もかかるプロジェクトです。

池間・八重干瀬会会長・平本明彦さんによれば、プロジェクトは想定以上に順調とのこと。「池間の海に着床具を戻したのが2021年の9月で、それから半年が経ちましたが、サンゴの生存率は約80%。通常は25～50%とのことなので、非常に優秀な数字です。今回はサンゴスペシャリスト・鈴木豪先生の指導があったものの、これまで増殖例のないヤッコミドリイシというサンゴの増殖とあって不安もありましたが、無事に育ってくれてホッとしています（平本さん）」

稚サンゴが入った入れ物を海に戻す

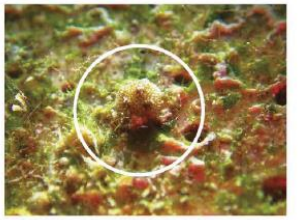
始まっています、池間島サンゴ再生プロジェクト

移植場所は水温上昇のしにくい場所が選ばれ、オニヒトデの被害を受けない工夫もされています。もし周辺一帯のサンゴがオニヒトデなどで死滅してしまっても、移植サンゴの群生が生き残って産卵すれば、早期の環境回復が期待できるのです。

「サンゴが減って、今まで海の環境は悪くなる一方でしたが、その悪化に歯止めをかけられるかもしれない。八重干瀬のダメージは軽くありませんが、ここ数年は元気に回復している場所もあります。まったくの手遅れでないからこそ、いま始めなければならないし、きちんと再生に取り組みたい。島の人、観光客それぞれのサンゴに対する意識が変わり、サンゴと魚がいっぱいいる海に向かう時代となってほしいですね（平本さん）」

※沖縄県漁業調整規則によりサンゴの採捕は禁止されています。本プロジェクトは、特別採捕許可を得て実施しています。決してサンゴを採ったり折ったりしないでください。

増殖場は鉄柱で支えられており、オニヒトデは登ってこられない



移設から4ヶ月、順調に育つヤッコミドリイシ

もっと海を知ろう！私たちも学んでいます！

宮古島サンゴ礁ガイドのなかまたち

毎月開催する定例会では、活動方針などを決めるほか、海の生き物についての勉強会も行っており、会員以外でもどなたでも参加できます。当サークルの活動目標は、無理なく楽しみながらサンゴを学び、その知識を誰かに伝えられる市民を増やすことで、新規会員大募集中です！

今はコロナウィルス感染拡大の影響で、海での観察会は休止中ですが、落ち着いたら再開しますので、HPをチェックしてくださいね。

・問合せ：090-1943-0452（友利）
・会員年会費：2,000 円
・定例会：毎月第一金曜日 19 時開始
・場所：宮古島市未来創造センター

宮古島海洋少年団

小学生から高校生までを対象に、本年4月に結成された新しい団体です。海洋に親しむ機会を持ち、海上生活に必要な技術や科学的知識を身に付けることで健全な育成を図ることを目的に活動しています。指導員は全員、日本海洋少年団連盟が定めた基準を満たした上で、研修受講及び資格審査を経ています。

団の活動を通し、子ども達に「宮古の海の素晴らしさ、危険性、危機回避能力」を伝えてまいります。

宮古島海洋少年団
JAPAN SEA CADET FEDERATION

※現在新規会員募集は停止しております
・活動：月２回程度、日曜日
午前８時～午後１時迄
・場所：パイナガマビーチ他